



12月号

麻布幼稚園だより

港区立麻布幼稚園
園長 佐藤 幸子

こども会に向けて

園長 佐藤 幸子

園庭の木々も色付き、秋から冬への移り変わりを感じる頃となりました。登園すると「綺麗！」とうれしそうに見ている姿も見られます。

大規模改修工事が終わり、先月は、登園の仕方も以前に戻りました。保護者の皆様におかれましては子どもたちをオレンジロードで見送っていただくことにご協力をいただきまして、心より感謝申し上げます。みかん組の子どもたちが保育室を目指して走って行く後ろ姿に、幼稚園が自分の生活の場となり自立心が芽生えていることを感じております。途中で綺麗に色付いた落ち葉を拾ってみたり、友達と出会ったりしながら子どもたちの生活が始まっています。改めてご家庭の連携があつての幼稚園だと感じております。おかげ様で、先生に見守られながら身支度をして遊び始めるまでの時間も短くなり、早くから遊びを楽しむ様子が見られます。寒くなって来ましたが、早寝、早起き、朝ごはんのリズムを整え気持ちよく園生活をスタートできるように引き続きご協力をお願いいたします。

さて、12月はこども会があります。幼稚園では、遊びの中で動物になってお家ごっこをしたり、自分の経験したことを再現したりして楽しんできました。

みかん組に行くとお面を付けたウサギがぴょんぴょんと跳んで来たり、大きな口のワニがパクッと噛みついてきたりします。すみれ組は、桃太郎が桃をゆらゆら揺らしながら川を流れてきました。動きながら「あっ、桃にかくれちゃおう」と桃太郎が桃に隠れて、元気よく桃太郎が生まれてきました。それを見て、近くで遊んでいた子が段ボールに隠れて、バッ！と出て来ました。先生が「わあ！」と驚くと、それを見て他の子も隠れては勢いよく出て来ることを繰り返し楽しんでいました。子どもたちのちょっとした表現を一つひとつ教師が受け止め、子どもたちと一緒に楽しむことで、子どもたちは自信をもって表現し楽しんでいます。うめ組は、学級閉鎖もあり学級の仲間がなかなか揃いませんでしたが、それまで楽しんできた「さるかにごっこ」を新しくなったプレイルームで見せてもらいました。物語の世界を楽しみ、役の気持ちも感じながら張り切っている様子が動きや声から伝わってきます。仲間と息を合わせたり、相手の動きや言葉を受けてやり取りをしたりしながら、仲間とのつながりを感じ一緒に劇を進める面白さを味わっていました。一人ひとりが目的に向かって役割を意識して力を発揮している姿に「さすが、年長さん！」と成長を感じています。

幼稚園のこども会は遊びの中で楽しみながら経験してきたことの積み重ねです。引き続き、登園時間を守っての登園にご協力をお願いいたします。



朝の園庭



みんなで劇ごっこ



秋の自然に触れて